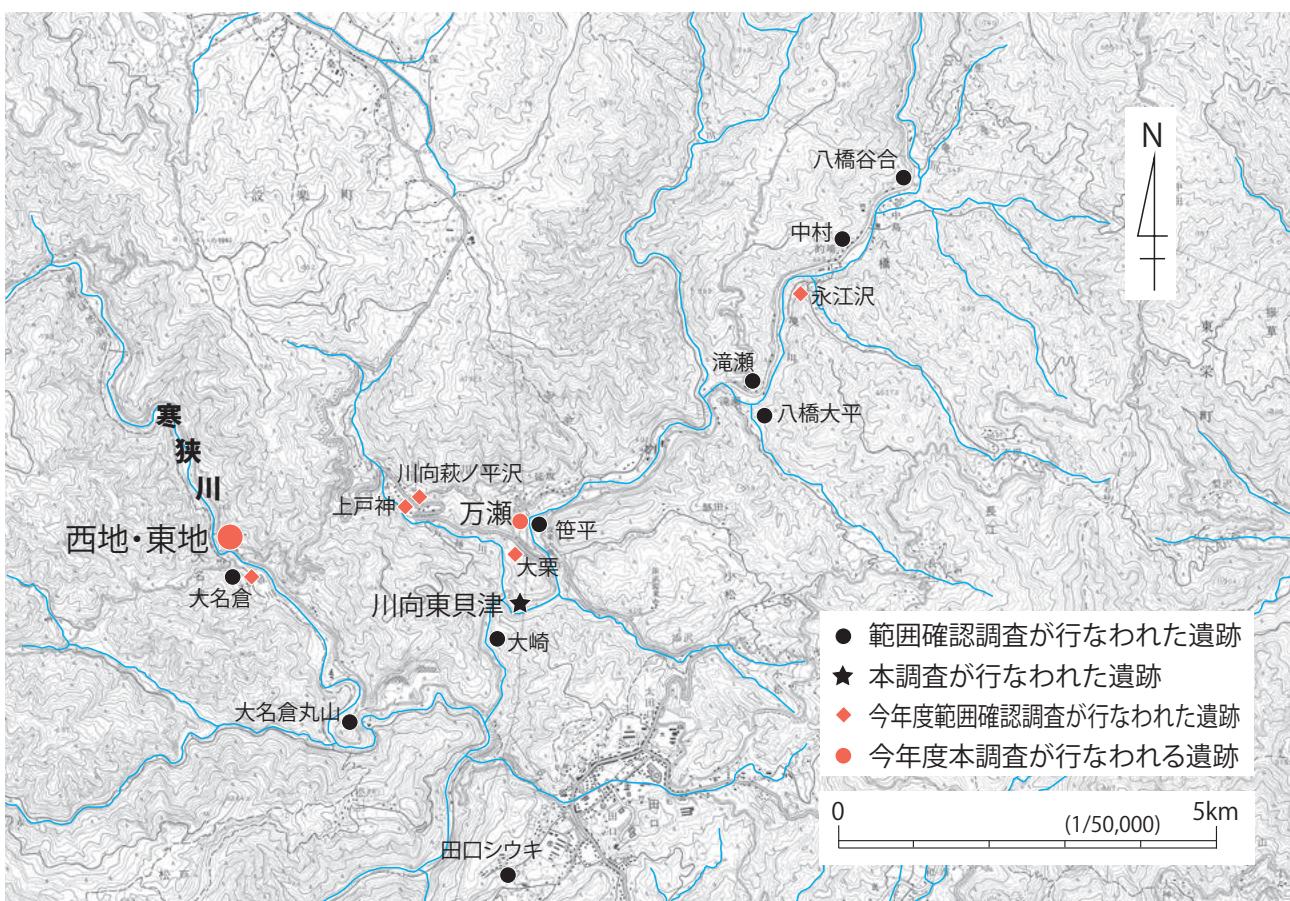


にしじ・ひがしじいせき 2014年10月4日(土)開催

西地・東地遺跡 地元説明会資料



調査機関 公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団



〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802 の 24

HP <http://www.maibun.com>

愛知県埋蔵文化財センター

電話 (0567) 67 - 4163 【調査課】

Facebook <https://www.facebook.com/maibunaichi>

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

調査支援

西地・東地遺跡14B区全体図(1/400) 【1マスは10m】

調査では、主に江戸時代の遺構(生活のあと)を確認しています。現地では遺構の部分を白い線で示してあります。(この図ではオレンジ色で示してあります。)

緩やかな傾斜



江戸時代の陶器

江戸時代の人が生活したことによりできた包含層には、江戸時代の遺物ばかりではなく、縄文時代の土器や石器も出土します。(この図では紫色で示した位置から出土しています。)



ほつたてばしらたものあと
上の段では、掘立柱建物跡と思われる柱穴列がみつかっています。



江戸時代の石積みの最下段部分です。
平場を作るために築かれたものと
考えられます。

にじじ・ひがしじ

西地・東地遺跡から出土する縄文時代の遺物



縄文土器
(今から5,000年ほど前)



縄文土器(今から4,500年ほど前)



石鏃(矢尻)

長さ1.5~2cmほど



石匙

(石製のナイフ)

長さ5cm~7cm



石錐

(魚取り用の網の錐)

長さ5cm~7cm



剥片・石核(石鏃を作るもと
こくようせき 黒曜石が多い)

その他、
打製石斧(土掘用の打ち欠いて作られた斧)・磨製石斧(木の
伐採などをする磨いて作られた斧)などの出土もあり、
石器の種類はそろっています。

N



現在までの調査の概要

にじし・ひがしじ
かんさがわ
さんろく
かんけいしゃち
かがんだんきゅうめん
西地・東地遺跡は、標高約 450m、寒狭川左岸の山麓の緩傾斜地および河岸段丘面上にあります。
この調査は、国土交通省の設楽ダム関連事業に伴う発掘調査です。これまで、平成 16 年から 18
年の愛知県教育委員会の詳細遺物分布調査や、平成 24 年・25 年の愛知県埋蔵文化財センターによる範囲確認調査で、縄文時代から江戸時代の遺構・遺物が確認されました。今年度は、4,220 m²を対象に発掘調査（本調査）を 7 月から行なっています。

<層の堆積と遺構> 江戸時代以降、宅地や畠などの利用に伴い、平場の造成などが繰り返し行われたようです。調査では、土盛りをして平場を作った際の、石積みの跡が見つかっています。建物の柱穴の痕跡のほか、火を使った痕跡も、調査区内の各所で確認することができます。その下には、黒色土が調査区全体に広く堆積しています。黒色土を覆う包含層では江戸時代の遺構や遺物が出土しますが、黒色土中には縄文時代の土器・石器が含まれています。

<出土遺物> 天目茶碗・擂鉢・内耳鍋・土師器皿など、江戸時代を中心とした陶器・土器が出土しています。また、鉄製の刃物などを研いだ砥石も多く出土しています。一方、縄文時代の土器や石器も数多く出土しています。縄文土器は、後期初頭から前葉（約4,500年前）の資料が多く、中期中葉（約5,000年前）や、前期後半（約6,500年前）、さらには早期の表裏条痕文土器（約8,000年前）や押型文土器（約9,000年前）と、古い段階からこの場所が利用されていたようです。石器は、石鏃・石錐・石匙・スクレイパー・打製石斧・礫器・磨製石斧・石錘・磨石敲石類・石皿台石類と各器種が出土しています。石鏃やその素材となる剥片・石核も、黒曜石がよく使われています。また、磨石敲石類が多く出土しています。これらは、ドングリなど木の実の加工に使われたと考えられ、当時のヒトがこの場所に安定した営みを行なっていたといえるでしょう。

今後は、縄文時代の遺構を確認するなど、縄文時代における遺跡の様相を解明する予定です。